
【番外編】 ウィンザー物語

らいとてん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【番外編】ウィンザー物語

【Nコード】

N05020

【作者名】

らいとてん

【あらすじ】

『ウィンザー物語』の番外編です。

それはまだティナがヴォルグの居酒屋に馴染んではいなかった頃。今でこそティナは居酒屋の看板息子だが、始めはそうではなかった。

ヴォルグだけは「よくきたな！」とティナを最初から構い倒していたが、客や店員はその人離れした美貌に遠巻きにティナを眺めるだけだった。

彼らがティナのことを「素直でかわいい、ただの（凶暴な）子供なんだなあ」と認識し、可愛がり始めたきっかけは、一枚のお菓子だった。

ある晩、王都自治団長ヴォルグは砂糖菓子を用意した。パイ生地に砂糖を乗せたサクサクとした食感のその菓子は、有名菓子店で人気の新作だった。

いかにも子供が好みそうなその菓子を、

「こんなのはガキの食べるものだ。酒のつまみにもならねえ。ティナ食っていいぞ」

とウィンザーこと傭兵『ティナ』にすすめたが、晩は太るといつて、ティナは食べなかった。

仕方がないので、常連たちが酒のつまみにしたところ、予想以上においしい。

販売開始後すぐに売り切れという人気新商品の名はだてではなかった。

どんどん減っていく砂糖菓子。
それを、恨めしげに見るティナ。

必死に我慢する美少年も絵になるなあと、いけないことを考える大人たち。

だが、そんな大人たちの余裕は、半泣きのティナを見て一気に霧散した。

サラリと流れる銀髪。

濡れそぼった青の瞳。

白い肌に、赤くなった目元。

震える、薄く開いた唇。

こ、これは……。

（いや、俺にはそっちの趣味はねえ）

（お、おらはおっかあ一筋だ）

（やべえ）

「ティ、ティナ。ほら、一つだけなら、構わないんじゃないか？」

そういつて、菓子を一枚、ティナに差し出したヴォルグに、ティナは、こてんと首をかしげて、しゃっくりをあげながら、そつと上目遣いにヴォルグを窺う。

「……い、いいかな？」

「っ。ああっ。ほら、早く食え」

「ありがとう。ヴォルグ」

満面の笑みで菓子を受け取り、端っこからかじって、少しでも長く楽しもうとするティナ。普段の凶暴さからは考えられないほどの可愛いさだった。

「ティ、ティナ坊？ もう一枚欲しくないか？」

「ほら、僕のもやるよ」

「あ、あたしのも……」

客たちは、我も我もとティナを餌付けしようとした。

結果、誘惑に負けたティナは体重が増えてしまったらしく、しばらくの間、居酒屋に近づこうとしなかった。

仕事中、傭兵仲間にこぼした愚痴曰く、

「あの店に行ったら、なんか、いろんな人に、めっちゃくちゃ食わされるから……」

それを聞き、客たちの間で『ティナ餌付け当番表』が作られたなんて、ティナは知らない。

（後書き）

ウィンザーが傭兵を始めたばかりの頃のお話。

『ティナ』は近寄りがたいほどの美少年ですので、

最初、ヴォルグはともかく周囲の人々はウィンザーを遠巻きに眺めていました。

でも、こういうことが何回かあって、

ああ、素直でかわいい、ただの（凶暴な）子供なんだなあと、
いう認識がきて、居酒屋の客や店員が可愛がる看板息子に。

本編で入れるとこなさそうなので、番外編にしてみました。

願わくば、『ティナ』ことウィンザーが読者の皆様にも可愛がってもらえますように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0502o/>

【番外編】ウィンザー物語

2011年3月26日16時07分発行